

[果樹部門]

1. 「おかやま夢白桃」の摘果作業を始める時期

[要約]

「おかやま夢白桃」の摘果は、果実が小さく、果皮が黄色みを帯びた不受精果の判別がつく満開後 25 日以降から始める。

[担当] 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「おかやま夢白桃」は幼果期に発育が停滞する小果の発生が多く、遅くまで樹上に残る特性がある。そこで、小果の発生要因、発生時期を明らかにし、摘果に際しての対処法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 不受精果は開花後 20 日目までは正常果とほぼ同様な果実肥大を示すため、外観から判別しにくい。その後は正常果より明らかに肥大が劣る（図 1-a、図 2）。
2. 不受精果の胚珠は開花後 35 日ごろから褐変し始めるが、落果しないものがあるため小果として樹上に残る（図 1-b）。
3. 不受精果は、正常果に比べて、開花後 25 日以降は黄色や褐色を帯びており、果面のしわが発生しているため判別しやすい。

以上の結果から、「おかやま夢白桃」の摘果を行う際、満開後 25 日以降に行うことが望ましい。

[成果の活用面・留意点]

1. 「おかやま夢白桃」の栽培指導に活用できる。
2. 摘果の開始時期は満開後 25 日以降であるが、年次によって果実肥大の様相が異なるため、大小差の判別がついてから摘果を始める。

[具体的データ]

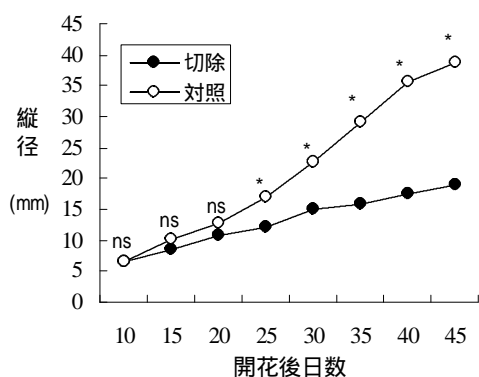


図1-a 「おかやま夢白桃」の不受精果¹の果実肥大(縦径)

¹: 開花前日に柱頭を切除
*はt検定(5%水準)で有意差あり、nsは有意差がないことを示す

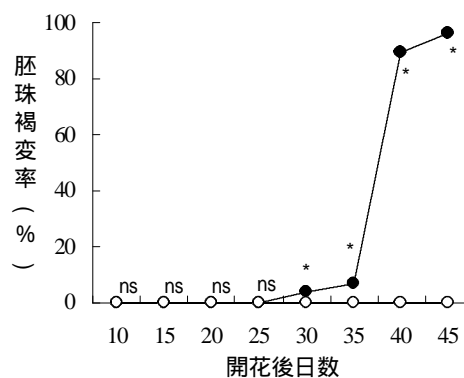


図1-b 「おかやま夢白桃」の不受精果¹の胚珠褐変

¹: 開花前日に柱頭を切除
*はBonferroniの母比率の差検定(5%水準)で有意差あり、nsは有意差がないことを示す



図2 「おかやま夢白桃」の不受精果(柱頭切除)と正常果の幼果の肥大の様相

[その他]

研究課題名: 「おかやま夢白桃」のブランド化のための安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2007 ~ 2011 年度

研究担当者: 藤井雄一郎、安井淑彦、永井真弓

関連情報等: 1) 平成 19 年度試験研究主要成果、13-14

2) 平成 20 年度試験研究主要成果、23-24